

2019年度 活動報告書

福知山公立大学
まちかどキャンパス

吹風舎
ふくちしゃ

FUKUCHISHA
The University of Fukuchiyama



福知山公立大学 まちかどキャンパス「吹風舎」
〒620-0028 福知山市字上新7番
TEL : 0773-45-3087
Email : machikado@fukuchiyama.ac.jp

福知山公立大学市民学習・キャリア支援センター
〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
福知山公立大学 2号館 1階
TEL : 0773-24-7151 FAX : 0773-24-7152
Email : kita-re@fukuchiyama.ac.jp

 福知山公立大学

大学の教職員・学生と地域の人々が集い

ひとを育てる。まちを育てる。

FUKUCHISHA



目次

ご挨拶・まちかどキャンパス吹風舎の概要	1P
活動事業報告 01 / まちかどギャラリー	4P
活動事業報告 02 / まちライブラリー	8P
活動事業報告 03 / まちびと起業塾 2019	12P
活動事業報告 04 / まちびとゼミ	16P
活動事業報告 05 / 学生企画チーム「DOKKO」	19P
活用状況報告 01 / 大学や学生の教育・実践活動を支援する場	23P
活用状況報告 02 / 大学や教員の事業・研究活動を支援する場	25P
活用状況報告 03 / 多様な市民活動を支援する場	27P
活用状況報告 04 / 福知山ワンダーマーケットとの連携	28P
資料ページ / 吹風舎通信 夏号・秋号	29P

ご挨拶

まちかどキャンパス吹風舎は、一昨年の2018年5月13日に開館記念式典を開催しオープンしました。もうじき開設2年を迎えます。「市民の大学」「地域のための大学」「世界と共に歩む大学」を基本理念に掲げる本学にとって、地域の「まちかど」に拠点を持てたことは大きな喜びでした。この間、ひと月平均約500人の方々にお越しいただき、たくさんの笑顔が生まれました。ご利用いただきました市民のみなさま、大学教職員・学生のみなさん、関心をお寄せいただいたすべてのみなさまに心よりお礼申し上げます。

この間の活動で、地域の方々と学生の交流が生まれ、協力して行う活動が少しずつ増えてきたことは、とても嬉しいことでした。吹風舎で活動する学生企画チーム DOKKOは、コミュニティカフェ「想て成しかふえ」や住民との交流会「おかず持ち寄り会」、子どもとの学びと交流の場「ふく子屋」などの交流活動を開催しました。大学正課の演習では、「和紙燈籠作り」や「学生のふるさとの『味』交流会」、「暮らしとまちを見直す井戸端会議」など、地域住民が参加するワークショップが行われました。また、課外活動である学生プロジェクトでは、多文化共生をテーマにイベント「世界のあそびを体験しよう」が実施されました。

市民や地域と関わるこれらの活動は、学生にとって大きな学びの機会となっています。この2年で出てきた大学・学生と市民との協働の小さな芽が大きくなることを願っています。

一方、協働することの難しさも実感しました。地域の方々の想いと学生の想いや大学の考えが、いつもぴったり重なるとは限りません。お互いの考え方や価値観が異なることを知り、相互に理解し合うことの大切さを学んだ2年間でもありました。この間の失敗と学びを大切に、丁寧な話し合いを心がけ、関わる人々お互いの想いを大切に活動を行っていきたくと考えています。

最後に、開設からの2年、学生企画チーム DOKKOを中心に吹風舎に関心を寄せ通ってくれる学生達の意欲と行動力に支えられて充実した事業展開と賑やかな場づくりができました。学生のみなさんありがとうございました。そして、それらの活動は地域の方々の協力と事務スタッフ、コーディネーターの支援があって展開できました。重ねてお礼申し上げます。

2020年3月吉日
まちかどキャンパス専門委員会 委員長
[市民学習・キャリア支援センター長]
谷口 知弘

福知山公立大学

まちかどキャンパス吹風舎（ふくちしゃ）の概要

コンセプト

大学からまちに出て、「まちかど」＝地域社会の只中に設けた「まちかどキャンパス吹風舎（ふくちしゃ）」は、大学の教職員・学生と地域の人々が集い、交流する機会と場をつくる「いえ（舎）」です。多様な人々が集い、話し合いや共同作業を通して学び合い、持続可能な地域社会形成の担い手となる人を育てる場を目指しています。また、まちかどキャンパスを地域住民が集う「場」と見立てて、公民館や集会所を活用して住民主体で行う事業のモデルを提案することも目的としています。

機能・空間と事業

まちかどキャンパスの機能と空間を使い実施した事業です。
実験的な取り組みを重ねつつ地域の人々のご意見や関わりから、恐れず変化・進化する「場」でありたいと考えています。

① Library（ライブラリー：交流する図書室・読書室）

“まちライブラリー福々BOOKS@福知山公立大学”

本をきっかけにつながりを生む、思いと本を持ち寄ってつくる小さな図書館です。

② Gallery（ギャラリー：学ぶ・感じる展示と情報発信の場）

“まちかどギャラリー”

地域で活躍する様々なジャンルのクリエイター、作家たちの仕事を紹介しました。

③ School（スクール：みんなで学び合う場）

福知山公立大学公開講座“井口学長塾”

学長井口先生が塾長を務める近代史をテーマにした学びの場です。

参加者が運営に主体的に関わる学びのコミュニティが形成されています。

“まちびとゼミ”

地域の人々が講師となり、学びと交流の場をつくっています。今年は「明智光秀と福知山踊り」、「認知症」の二つのテーマで開催しました。

“まちびと起業塾”（社会起業家の育成、ソーシャルビジネス立ち上げ支援）

小さな公共的空間⇔まちの「スキマ」を活用した小さな商い（ソーシャル・ビジネス）によってより良い地域社会をつくるアイデアの提供と担い手育成を目的に「まちびと起業塾～みんなの食堂をつくらう！」を開塾しました。

④ Cafe（カフェ：出会いと交流の場）

“想て成しかふえプロジェクト（地域プロジェクト）”

学生がコーヒーを淹れるコミュニティカフェ。地域住民と学生が交流する場をつくりました。

⑤ Workshop（ワークショップ：知恵を集めて企て実践する場）

地域プロジェクト（学生企画チーム DOKKO が中心となり地域と協力して事業を実施）

“ふく子屋プロジェクト”

「学び」を大きなテーマに地域の小学生と大学生が交流する会を放課後に行いました。

互いに学び、成長する場をつくることを目指して活動しました。

“福おじばプロジェクト”

高齢者と学生が楽しく交流することを通して助け合うつながりをつくり、一緒に楽しく安心して暮らせる地域づくりを目指しています。地域活動への参加や交流会を開催しました。

“畑プロジェクト”

農作業や自分たちで育てた野菜を通して人のつながりを育てることを目的に活動。今年は農家との交流も深めました。

“大学ゼミ活動での活用”

本学が推進する地域協働型教育の拠点施設として活用しました。ゼミ活動の演習室としての利用やイベントやワークショップなど協働実践の社会実験の場として活用されました。

⑥ 多様な市民活動を支援する場

市民活動など公益活動での利用を推進しています。予約なく利用できる少人数のミーティングから大人数で貸し切ったワークショップやセミナーなど、様々な活動に活用されました。

運営体制

① まちかどキャンパス専門委員会

まちかどキャンパス吹風舎の企画・運営について検討し実践する委員会です。市民学習・キャリア支援センターの中に設置されています。

〈2019 年度メンバー〉

委員：谷口知弘（教授、委員長）、平野真（教授）[2019.09 まで]、亀井省吾（教授）[2019.10 から]、中尾誠二（教授）、加藤好雄（准教授）

コーディネーター：西村有美

事務局：竹友良成、外賀豊樹、塩見公子

② 学生企画チーム DOKKO（ドッコ）

学生企画チーム DOKKO は、吹風舎のコンセプトに共感した学生が組織する学生チームです。吹風舎を支える大きな力です。今年度は1年生が30名余加わり約50人の学生が活動しました。チームの目的は大きく2つ、①学生と地域の協働を通して両者が成長すること。②学生と地域の架け橋を創ることを掲げています。活動は、①「地域プロジェクト」の実施、②地域活動への参加、③学生と地域をつなぐ活動、の3つを挙げています。吹風舎のコンセプト「大学の教職員・学生と地域の人々が集い、ひとを育てる。まちを育てる。」に重ねて学生視点で自発的、積極的に行動しています。メンバーは3年生13人、2年生5人、1年生29人の計47人です。（活動については、活動事業報告04、p19-22 参照）

利用時間・方法

開館時間

・火曜日～土曜日 午後1時～午後6時

休館日

・日曜日・月曜日・祝日
・年始年末、お盆等

利用方法

・1階「新町土間」（フリースペース）は、どなたでも利用可能（原則無料、貸し切りの場合は有料）
・2階「学生工房」は原則本学教職員・学生のみ利用

吹風舎の日常

開館して、2年近くが経ちました。

子どもたちが大学生と遊んだり、ご年配の方と携帯電話の操作について話していたりすることも、増えてきました。神戸から定期的にギャラリーを見に来られる男性がいらしたり、「また来ます」と言って帰られた北海道からの旅人もいらっしゃいました。

大学生はいつも楽しそうで、新町商店街を歩くだけで皆さんが声をかけてくださいます。

まだまだ発展途上、変化していく「吹風舎」であり続けたいと思います。



まちかどギャラリー

まちかどギャラリーは、市民とアート交流する場です

あらゆる人が自分を表現したがついています。技術や手法はまちまちですが、同じ時代を生きる「ひと」の温もりは、他のひとを惹きつけます。それは写真であったり、水彩画であったり、オブジェであったり、イラストであったり、あるいはインスタレーションやパフォーマンスかもしれません。ひとはひとを惹きつけるのです。ひととひとが出会う場所が私たちには必要です。まちかどギャラリーはそんな場所の一つとして、小さな壁から私たちを迎え入れてくれるのです。

まちかどキャンパスの小さな壁面を使って、このギャラリーは生まれました。町に住む人なら、どんな人でも参加可能です。思い思いの表現作品を展示し、他の人と触れ合いましょう。作品は私たちの心の窓であり、その窓から様々な景色を眺めることができます。2018年度にこのギャラリーはオープンし、ゆったりとした時間の流れの中で、5人の作家を取り上げました。そして2019年度は、5つの展覧会をおこないました。6人の作家の作品が並び、加えて、大学生・高校生・子どもたちの共同作品を展示しました。お互いにそれまで会ったこともない人々の作品が、この壁面で時を過ごしました。

また、6人の作家のうち3人はスペイン在住の作家でした。お一人は、来日しワークショップを開きました。とっても素敵な国際交流が実現しました。

スペイン在住の作家の方々と交流は、10月からまちかどギャラリーの企画・運営に参画する美術家の新井厚子さんのネットワークがあって実現しました。福知山ご出身の新井さんはスペインのバルセロナで20年に渡りアーティスト活動をされてきた専門家です。このように、専門家である市民の協力を得て企画できたことが今年度のまちかどギャラリーで一番の嬉しいことでした。これからも市民と共に歩むまちかどギャラリーでありたいと願っています。



WORKSHOP
ロクリーナさんの本づくり
～ブックバインディング～
シンプルなおしゃれなアートブック「ブックバインディング」
で自分だけのオリジナルブックをつくりましょう。

2019年11月2日(土)
13:00～15:30

参加者募集

この講座も
開催予定です

福知山公立大学
まちかどキャンパス 吹風舎

利用時間 吹風舎2階 14時～18時 / 入場無料
〒620-0028 福知山 市上郡 吹風 2-1-1
TEL: 0773-45-3007
E-mail: machikado@kpu.ac.jp

01 展覧会 ひらの まこと 絵本ワールド

会期 2019年4月1日(金)～5月26日(日)



ひらの まこと:1952年東京生まれ。小・中・高校と12年間をフリースクール的な私立学校で過ごす。中学2年生の時にベトナム戦争の現実を知り、学生運動、ひきこもり、2年間の浪人生活を経て大学に。20代の後半から大人向けの絵本の創作・出版を始める。28歳の時にニューヨークに旅行し、現代美術に出会い、以来自身でも制作と個展発表活動を行う。2000年～2002年、9.11の前後のニューヨークで暮らす。2016年4月～2019年9月福知山公立大学教授。

02 展覧会 藤田真由美 作品展

会期 2019年5月29日(火)～7月23日

- 作品
- 5/29～6/11 ヒーリングアート
 - 6/12～6/16 薔薇と牡丹
 - 6/17～7/9 小品集とイラストレーション
 - 7/10～7/23 城下町福知山イラスト



藤田真由美
絵画教室アート Step 主宰
グラフィックデザイン制作
福知山城の巻物、城下の地図、明智光秀 AtoZ など

03 展覧会 浦岡雄介 作品展

会期 2019年8月1日(水)～9月28日(土)
 作品 手すきの和紙にドローイング

手すきの黒谷和紙を使ったドローイング。和紙の魅力を引き出すため、展示終盤では同じ作品をシワシワにして展示。



浦岡雄介：1981年生まれ。神戸出身。舞鶴市内の中学校で講師を務める。専門は美術教育。2015年文化交流施設「いざご会館」を開設。同館を勤務員として住み込みで運営。造形教室やアート・福祉に関わるワークショップ、またライブ、お祭り、中高年向けサロンの企画・運営、レンタルスペースを行い地域に関わる活動を行っている

04-1 展覧会 ページをつくる ～BOOK | ART in Barcelona～ (読書週間 関連企画)

会期 2019年10月16日(水)～12月22日(日)
 出展作家 スペイン、バルセロナを拠点に活動する3人の作家、
 ポンチョ・マルティネス／フランセスカ・ボサ／ロクサーナ・バルガス・ガルシア
 作品 本に関連のある作品を写真で紹介

バルセロナで活動する3人のアーティストの製本(ブックバインディング)をベースとした作品展。伝統的な本作りから、本や文字をテーマにした立体作品、既成の本を使った作品、また天然素材で制作した本の作品など、様々な作品を写真で紹介。



04-2 ワークショップ ロクサーナさんの本づくり ～ブックバインディング～

日時 2019年11月2日(土)

展覧会「ページを作る」の参加作家、ロクサーナ氏を講師に迎え、シンプルなアート製本技術(ブックバインディング)でオリジナルブックをつくる。美術館で展覧会鑑賞のあと、吹風舎で展覧会「ページを作る」のギャラリートークを行い、製本の基本的な材料や作り方を学び、簡単な冊子を2冊制作。



05 展覧会 おおきなパズルができた！

会期 2020年1月8日(水)～2月29日(土)
 作品 高校アート展のワークショップで制作された木のパズル
 ワークショップ主催：佐藤太清記念美術館
 協力：京都府立工業高校ロボット技術科／シンマチサイト実行委員会／福知山公立大学地域経営学部谷口ゼミ／山山アートセンター



高校アート展(主催 福知山市佐藤太清記念美術館)関連ワークショップで制作。木のパズルは府立工業高校ロボット技術科で製作し、ワークショップ参加者と一緒に作画。パズルを組み立てて遊ぶ他に、パーツを入れ替えて、様々な抽象画が作られる。

まちライブラリー

まちライブラリーとは・・・ カフェやオフィス、自宅などに人々が本を持ち寄って、その場所オリジナルの本棚を作ります。その本をきっかけに人が集い、テーマを決めて語り合ったり、本を囲んでお茶会を開いたり・・・。ただ本を読むだけでなく、本を通じての繋がりとなる新しい図書館の形。現在は大学や病院、お寺などでも開かれ、全国 800 か所近い拡がりを見せています。

学生と地域の方々の交流&学びの場として新町商店街内にオープンしたまちかどキャンパス「吹風舎」。この場所に多くの方が集い、繋がり、新たな学びを生み出していくこと、そんな「繋がり」が地域全体に増えていくことを目指し、「まちライブラリー福々 BOOKS」は誕生しました。

気軽に身近に感じていただける場所作りを今後も担っていきます。

Hi Hi there!!! 絵本ちゃんがやってきた!!!!
絵本を気軽に楽しもう！絵本ちゃんからのメッセージ

2019年11月30日
絵本ちゃん・
きのこ文庫
谷文絵さん
参加人数 13人



まちライブラリー福々 BOOKS の1周年を記念して、丹波町の旧質美小学校で絵本専門店を開きながらまちライブラリーをされている谷さんをお迎えしました。絵本の魅力を余すところなく伝えていただきました。ポイントを押さえながらの読み聞かせも実践に役立つお話が盛りだくさんでした。

講演会

本に関わるお仕事をしている人をお招きして、本の魅力・可能性について語っていただきました。

本にまつわるおもしろいお話会
Hi Hi there!!! モジカのブックキュレーターがやってきた!!!!

2019年6月4日
古本と珈琲モジカ
西村優作さん
参加人数 12人



まちライブラリー福々 BOOKS の本が新たに入荷し、その中でも特におすすめしたい本をピックアップした講演会を行いました。どういった風に読んだら楽しいか、その本にまつわる面白い話など、その本を好きになるきっかけを作れた楽しい会となりました。

ほぼひとり出版社社主 麦ちゃんに聞こう
本ってなあに？

2020年2月9日
ゲスト：生活の医療社
秋元麦踏さん
聞き手：古本と珈琲モジカ
西村優作さん
参加人数 13人



東京で出版社をされている秋元さんをお呼びして、出版された本について、流通について、本のこれからについて、実際に仕事をする上で経験されたことをふまえて、講演いただきました。出版社を立ち上げる以前にされていた活動も、とても魅力的にお話いただきました。

ワークショップ

本に関わるモノを作り、本に親しんでいただくイベントを行いました。

福知山市佐藤太清美術館連携企画
絵を読む、本を描く
—おりたたみ絵本をつくる—

2019年7月6日
参加人数 11人



福知山市佐藤太清美術館で開催された企画展「その風景の向こう側」。参加者の方には、作品を通して、その先に見える物語や風景を考えていただきました。その後、吹風舎へ移動しておもしろい絵本を作成しました。小さい子供さんからお母さん達まで、みなさん個性的な作品が完成しました。

消しゴムハンコで Let's 蔵書印

2020年1月18日
参加人数 5人



自分の持っている本に押し、自分の本だと伝えるハンコ。それが蔵書印です。自分の好きなキャラクターやマークをオリジナルの蔵書印として作成しました。



町歩き周遊イベント

本のおよめぐりさんぽ
—回遊読書週間—

2019年10月19日～11月9日

<参加施設・店舗>

福知山市立図書館 中央館
福知山市丹波生活衣館
福知山市佐藤太清美術館
まいまい堂
古本と珈琲モジカ
お城の下で
福知山公立大学メディアセンター



福知山の町を歩きながら、本に親しんでもらおうという回遊企画を読書週間に合わせて行いました。各参加店には、オススメの本の棚や企画展、読書会等を行っていただき、お店に立ち寄りやすい工夫をしていただきました。各店で集めた、おすすめの本を書いてもらう「本の実」は、福々BOOKSと図書館で木に飾り付けられました。大変多くの方に参加いただき、木にいっぱいの本の実がなりました。

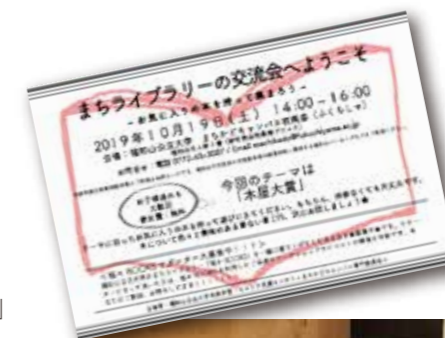
交流会

4月20日 交流会 参加人数 6名

5月18日 交流会 参加人数 4名

8月10日 交流会テーマ「漫画」
参加人数 3名

10月19日 交流会テーマ「本屋大賞」
参加人数 4名



自分のお気に入りの本や絵本、漫画などを持ち寄って、参加者同士で紹介し、お互いの本の魅力を語り合う交流会です。夏からは、テーマを決めて開催しました。自分の好きな本を誰かに教えたい人、誰かに教えてもらった本を読みたい人、本が得意な人、そうでない人、様々な人がフラッと集まれる場所作りを目指しました。「本屋大賞」をテーマにした会では、大学生に当日配布用のプリントを作成してもらいました。それをみながら当日はとても話が弾みました。



まちびと起業塾 2019

まちの「スキマ」で小商い ―企画と実践編―

小さな公共的空間≡まちの「スキマ」を活用した小さな商い（ソーシャル・ビジネス）によってより良い地域社会をつくるアイデアの提供と担い手育成を目的に「まちびと起業塾」を開塾しました。
2018年度は「学びと発見編」と題して多様な活用事例を学び、2019年度は「学びと実践編」として、テーマを絞った学びと企画・実践を試みました。

2020年度「学びと実践編」のテーマ

みんなの食堂をつくろう！

～地域の食材・人材を活かした共食のススメ～

地域資源を活かした「人があつまる」場づくりをテーマに、小さな商い（ソーシャル・ビジネス）の起業支援として「みんなの食堂をつくろう！」と題して基礎講座と実践講座を開きました。本年度は、地域社会の問題解決の一つの手法としてソーシャル・ビジネスの担い手育成を試みる本学と女性が活躍する社会の形成に取り組む京都府中丹広域振興局（輝く女性応援京都会議）との共催事業として実施しました。尚、実践講座6回の内、2回分が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

人があつまる場や共食の場に関心を寄せる35人の多世代且つ多様な分野の方々の参加を得て、交流し学び合う場となりました。京都府と共同開催したこと及び基礎講座と実践講座の2段階にしたことで、学生から年配者まで、それぞれの関心に応じて参加し易い場づくりとなったと推察しています。また、実践者をアドバイザーとして迎えたことにより、現場の実際から学び参加者自らが担い手として一歩を踏み出す意識を高めることができました。ただ、社会実験として実践を試みる計画が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止せざるを得なかったことはとても残念でした。

みんなの食堂をつくろう！
～地域の食材・人材を活かした共食のススメ～

【基礎講座】 1月19日
① 企画をつくる。資金調達する (定員30名)
② アイデアをカタチにする事業計画書の作り方
③ 実践講座 6回 (1月27日～2月10日)

【実践講座】 2月10日～2月17日 (定員15名)
④ チームづくりミーティング
⑤ 店舗づくりミーティング
⑥ みんなの食堂、やってみよう！
⑦ 準備アセス

【基礎講座】 第1回 企画をつくる。資金を調達する。 「アイデアをカタチにする事業計画の作り方」

- 日時 2020年1月20日(月) 17:30～19:30
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
- 講師 林 勇作さん(京都府よろず支援拠点)
- *講座開始前の16:00～17:00、経営相談ブースを設け経営相談を実施した(相談者2名)。
- 参加者 22名



<レポート>

地域社会の問題を解決したいとの思いやアイデアを持つ市民はたくさんいます。しかし、活動の資金を補助金に頼りがちであったり、担い手は手弁当であったりと継続性に不安を抱える活動が多いのも現実です。そこで、基礎講座の第1回では、自立的・継続的な運営を行うための事業計画の作り方を学びました。講師の林さんは、経営者でもある自らの経験も踏まえて、<①売れる「企画を作る」、②必要な「資金を調達する」、③事業計画書への落とし込み>の順に語りかけ、密度の高い講座となりました。「創業は一人でやる時代ではない。仲間がいる、相談できる場所があることが大切。」とのメッセージは、ソーシャル・ビジネスを志す者の心に響きました。

【基礎講座】 第2回 実践事例に学ぶ 「地産地消の食堂の作り方～ミヤサイ食堂の実践に学ぶ」 週一の朝ごはんレストラン「ミヤサイ食堂」を体験・試食！

- 日時 2020年1月27日(月) 16:00～18:00
- 会場 厨房付きレンタルスペース アーキテンポ(新町商店街内)
- 講師 ミヤサイ食堂(有機百姓ミヤサイ、宮田毅さん・裕美さん)
- 参加者 13名



<レポート>

本講座は、学びの講座の次に「みんなの食堂」を社会実験として1回ではありますが実践することが大きなポイントであり、難しいところでもありました。そこで、共食と地産地消を大切にした「みんなの食堂」を実際に体験することで食堂実践の具体的な目標イメージを参加者で共有することが重要だと考えました。そして、移住8年目の有機百姓ご夫婦がはじめた「ミヤサイ食堂」を体験することにしました。自らの畑で育てた野菜で作られた美味しく、見た目にも美しい料理をいただく食の共同体験と食堂経営の現実に触れるお話は、実践企画を進める過程でチームビルディングや共食の場づくりの目的や目標イメージをつくることに大いに役立ちました。



【基礎講座】 第3回 広報力をつける

「新聞からSNSまで様々なメディアを活用した広報戦略と実践」

- 日時 2020年1月27日(月) 18:30~20:30
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
- 講師 稲葉洋平さん (tempura.tv 株式会社代表取締役社長)
- 参加者 16名



<レポート>

イベント等に参加者が集まらなかったり、活動の担い手不足に困っている市民活動は多くあります。その要因の一つとして、広報力の不足があげられます。この問題意識は、共同主催者の輝く女性応援京都会議のワークショップでも挙がっていました。そこで、広報(PR)の専門家を京都市内より招き、<①広報(パブリックリレーションズ)を知る、②広報の実践、③ワークショップ~プレスリリースを書いてみる>と、広報の意味と価値を学び、そして明日からできる具体的な手法としてプレスリリースの実習を行いました。実習では、「大学生が出身地の郷土料理をふるまう。」「子供がびっくりする食堂~嫌い、苦手をなくそう~」「参加型食堂~おしゃべりカフェ」など、魅力的なアイデアも提案され、参加者同士が学び合う場にもなりました。

【実践講座】

- アドバイザー 小松美香さん (Mおいしいグルメ開発研究所所長) / 宮田毅さん・裕美さん (有機百姓ミヤサイ)
- コーディネーター 谷口知弘 (福知山公立大学教授)

【実践講座】 チームづくりミーティング

- 日時 2020年2月8日(土) 14:00~16:00
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
- 参加者 11人

<レポート>

実践編のキックオフとなるミーティングでは、限られた時間とメンバーでより実り多き実践にするために、大学生と市民との協働を提案しました。まず、福知山公立大学の学生団体きずずすとうに一層より、子どもの居場所プロジェクト「ふくちやま子ども食堂」実践の志や問題を語ってもらいました。参加者は興味深く聞き、質問を投げかけ、学生の取り組みを応援する機運が生まれました。そして、学生の取り組みに多世代交流や地域資源の活用を掛け算して「みんなの食堂」を試みるようになりました。



【実践講座】 第1回 企画づくりミーティング

準備ミーティング①

目的を話し合い、チラシに必要なオープン時間等の大枠を検討します

- 日時 2月12日(水) 19時~21時ごろまで
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
- 参加者 5名

<レポート>

チームづくりミーティングで決めた方向性を確認し、より具体的な場づくりについて話し合いました。そして、次に4つのことを大切に企画を進めていくことになりました。①「ふくちやま子ども食堂」を中心に、多世代交流・情報の発信ができる居場所をつくる。②食事の場と交流の場と分けて、食事は有機食材で、交流の場では昔遊びや情報共有できる場づくりをする。③ターゲットは、近い将来の共食の場づくりの担い手とする。④みんなの食堂は1回限りだが、今後も続けていけるような仕組みづくりをする。

【実践講座】 第2回 企画づくりミーティング

第1部 学び①

学びのテーマ「地域の食材からつくるメニュー開発」

第2部 準備ミーティング②

食材とメニュー、広報の方法等を検討します

- 日時 2月19日(水) 13時~15時
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
- 参加者 5名

<レポート>

2回目と3回目の企画づくりミーティングは、実践に必要な知識を「学ぶ」ことを加えました。第2回では、2人のアドバイザーより旬を大切に地域の食材からどのようにメニューを開発するのか、実際の開発を事例に学びました。準備ミーティングでは、子どもの食堂運営の継続性を高める仕組みについて話し合われ、「食べるサポート」の考え方を取り入れ、料金を子ども200円に対して大人は800円として「食べサポ」のアイデアを普及することになりました。自立的な運営について議論できたことは大きな成果でした。



【実践講座】 第3回 企画づくりミーティング

第1部 学び②

学びのテーマ「食の安全を確保する衛生の基本と保健所等の手続き」

第2部 準備ミーティング③

メニューを決め食材の調達や料理の段取りを検討します

- 日時 2月26日(水) 13時~15時
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
- 参加者 7名

<レポート>

3回目の企画づくりミーティングの前日2月25日に厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」が発表され、感染症拡大防止の対応が求められました。そこで、飲食を伴い高齢者の参加も想定されることから苦渋の選択ではありましたが次回以降の事業を中止することを実践メンバーに提案し了解を得ました。結果最終回となった第3回は、「食の安全を確保する衛生の基本と保健所等の手続き」について学び、1月から始まった講座の振り返りを行いました。参加者からは「今回の食品衛生の回の学びが一番大きかった。中止になってしまったのは残念だが、自身の活動で感じていた問題の解決の糸口が見えてきた気がする」、「みんなで同じ方向を向いて考えられる時間がすごく貴重だった。」などの感想が寄せられました。中止を余儀なくされましたが学び多き講座であったことを確認しました。また、学生からは「子ども食堂についてアドバイスがもらえた。実践が終点ではなく通過点だと思って学びを今後生かしていきたい」と頼もしい決意が述べられ、学生の子どもの食堂で再会することを約束して講座を終えました。ご参加のみなさまありがとうございました。



【実践講座】 第4回 企画づくりミーティング

準備ミーティング④(中止)

本番の段取りを決め、設えなどの準備作業をします

- 日時 3月4日(水) 15時~17時
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎

【実践講座】

「みんなの食堂をやってみよう！」(中止)

- 日時 3月7日(土) 11時30分~15時
- 会場 厨房付きレンタルスペース「アーキテンポ」



まちびとゼミ

市民を講師に学びと交流の場を作る

「まちびとゼミ」は、市民を講師に迎え、市民と学生が集って共に学び交流する場です。昨年度までは、市民学習・キャリア支援センターの事業として行ってきましたが、今年度からは、大学教職員・学生と市民が集い学ぶ会合を目指すまちかどキャンパス吹風舎のコンセプトにより親和性が高いことから吹風舎の事業として実施しました。

今年度も福知山の歴史文化と市民活動を大きなテーマとし、次の2つのまちびとゼミを開講しました。両ゼミともに、市民と学生が関心を寄せるひとつのテーマについて市民講師から学びました。そして、体験したり、話しあったりして、交流を通してテーマへの理解を深めることができました。

テーマ 1 福知山の歴史文化に触れる
～学ぶ！習う！踊る！明智光秀と福知山音頭

テーマ 2 RUN伴の活動に学ぶ「認知症 × 地域社会」
～認知症の人と伴に走る全国リレー

「RUN 伴」が福知山をやって来た～



テーマ2 チラシ

テーマ 1 福知山の歴史文化に触れる ～学ぶ！習う！踊る！明智光秀と福知山音頭

■趣旨と概要

全国から集う福知山公立大学の学生が福知山の歴史文化に触れる機会は多くありません。そこで、「福知山踊り」をテーマに郷土芸能を学び、体験を通して福知山の歴史文化に関心を持ち地域への愛着を醸成するとともに、地域特性を理解する一助になればと願い今年度で3回目の開催となりました。また、近年踊り手が減少し停滞気味である福知山ドッコイセまつりに学生が参加することも大学の地域貢献活動として重要であると考えています。

今年度は、明智光秀の福知山城大改修を起源に持つ福知山音頭と福知山ドッコイセまつりについて郷土家にお話を伺い、続いて学生よりリクエストが寄せられた「ゲタ踊」の体験を福知山ゲタ踊振興会のみなさまを講師に行いました。

■成果

お話では、明智光秀への思いを熱く語りかける市民講師の吉田さんの気持ちに触れ、学生はその熱意に驚いているようでした。この驚きは地域で活動する学生にとって大切な気づきになりました。次に、福知山踊りの体験では、初めて踊る学生もいましたが福知山ゲタ踊振興会の方々の上質な指導で終わるころには16の手ぶりをマスターしていました。そして、お盆の福知山ドッコイセまつりには延べ11名の学生が浴衣姿で参加しました。市民の熱意や揃いの法被で楽しく踊る姿に触れることで福知山踊りの魅力を感じ取ったからこそ参加に繋がったのではと推察しています。

加えて、市民講師としてご参加いただいたみなさんが、その場を楽しみ、学生との交流を喜んでくださったことも大事な成果でした。

■協働

福知山ゲタ踊振興会、福知山ドッコイセまつり実行委員会

■開催概要

第1回 学ぼう！～明智光秀と福知山音頭

- 講師 レクチャー：広小路商店街振興組理事長 吉田博さん
- 踊り指導：福知山ゲタ踊振興会
- 日時 平成31年7月31日(水) 19:00～20:30
- 会場 福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
- 参加者 約30名



テーマ1 チラシ



第2回 習おう！踊ろう！～ドッコイセまつり踊り練習会

- 日時 平成31年8月6日(火) 19:00～20:00
- 会場 厚生会館中ホール
- *福知山ドッコイセまつり実行委員会主催の第1回ドッコイセまつり踊り練習会と共同で開催しました。
- 参加者 約90名



RUN伴の活動に学ぶ「認知症 × 地域社会」 ～認知症の人と伴に走る全国リレー 「RUN 伴」が福知山をやって来た～

■趣旨と概要

認知症は高齢化が進む地域社会において、大きな課題であるにもかかわらず理解が進んでいるとはいえない状況にあります。ましてや学生にとっては、専門に学ぶ者は別として、関心を持ちにくいテーマでもあります。しかし、地域社会の問題解決に取り組む本学においては重要な課題です。そこで、認知症の啓発活動である「RUN伴」への学生の参加に加えて、認知症について知識を得、理解を深める場として「認知症 × 地域社会」をテーマに、まちびとゼミを開催しました。

市民講師には、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながらタスキをつなぎゴールを目指すイベント「RUN伴2019」に取り組む市民活動団体にお越しいただきました。加えて、地域包括支援センター、福知山市の保健師と専門家を迎えて学びの場をつくりました。

■成果

認知症や市民が取り組む「RUN伴」の活動について学び、認知症への理解を深めるとともに今後の支援の活動について考える機会となりました。

また、「RUN伴2019」には、本学学生16名がエントリーしており、そのうち約10名の学生がまちびとゼミに参加し、認知症についての知識を得るとともに、市民の活動に学び交流を深める場となりました。学生からは、RUN伴をきっかけに認知症について知ることができ有意義であったこと。市民からは、市民と学生や行政の人がコラボして一つのテーマで話をすることの有用性を感じたとの声がありました。まちびとゼミが市民・学生・行政と異なる主体が出会い学び合う場となりました。

■協働

福知山 RUN伴実行委員会、特定非営利活動法人市民力支援工房つむぎあい福知山、日新地域包括支援センター、福知山市福祉保健部高齢者福祉課

■開催概要

RUN伴の活動に学ぶ「認知症 × 地域社会」
～認知症の人と伴に走る全国リレー「RUN伴」が福知山をやって来た～

●日時 2019年10月17日(木)
18:30～20:00

●会場
福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎

テーマ「認知症とは」

●講師 杉山利正さん(日新地域包括支援センター主任介護支援専門員)

テーマ「福知山市の認知症の現状」

●講師 山野奈津美さん(福知山市福祉保健部高齢者福祉課 保健師)

テーマ「RUN伴とは」

●講師 坂元 勝良さん(福知山 RUN 伴実行委員会代表、特定非営利活動法人 市民力支援工房つむぎあい福知山 理事長)



福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎 学生企画チーム「DOKKO」

私たち DOKKOは、福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎を拠点に活動する学生企画チームです。地域と共に挑戦、成長し、また学生と地域の架け橋を創ることを目的に活動しています。活動の内容は大きく分けて3つに分かれます。

1つめは、学生自ら感じた問題意識や興味、やりたいことなどを地域でやってみる「地域プロジェクト」です。この取り組みでは、学生の主体性を伸ばし、学生の持っている力や疑問を地域にぶつけます。

2つめは、地域のイベントや様々な講座への参加です。運営側として関わる事もあれば、ボランティアとして関わる事も、また参加者としてなど様々な関わり方をします。

3つめは、学生と地域をつなぐ活動です。この活動では、大学生が福知山での生活をより楽しく、有意義なものにすることを目的し、福知山の情報発信や地域活動への参加を勧めるなど街中へ出るきっかけをつくる取り組みをします。これらの活動により学生は、地域の中に入ることによって大学の講義や日常生活では得られない学びや気づきを得るだけでなく、地域の方々と繋がることで、自分にない価値観や情報を得て自分を伸ばします。地域にとっては学生の活動から元気ももらったり、若い力や考え方を受け取ったりして、地域を考える刺激になればと思います。

このように学生と地域が互いに刺激しあい、成長しあう。そして助けあい、笑いあう。そんな活動をしています。



「DOKKO」メンバー

3回生

宮内瞭輔／山元翔吾／上埜妙子／上野裕也／小林冠太／小林達彦／新宮玲旺／田中奏／谷口ますみ／早川昂樹／日高みのり／森岡信照／森田奈都美

2回生

井坂彩乃／永松泰征／三根楓子／山田大貴／吉田一稀

1回生

秋山蒼／秋山勇介／安藤憧磨／石田蓮／井奈波冬哉／井上僚太／上野雄輝／上山遼太郎／大石緋那／川原田まつり／久保あずさ／小島未来／駒谷光樹／斎藤駿／坂野茉夢／坂野井利緒／豊田歩未／中垣琴羽／橋本佑／稗田恭子／深川春輝／本田湧大／政岡あやの／正木くるみ／三浦純子／三宅祐花／三輪祐介／山崎愛悟／米村彩花

想て成しかフェ

<活動メンバー>

3 回生：早川昂樹 新宮玲旺 日高みのり

2 回生：吉田一稀

1 回生：井奈波冬哉 川原田まつり 上野雄輝 駒谷光樹

<概要> 「想て成しかふえ」は地域の方々と学生が交流することをコンセプトにしたカフェです。

吹風舎を始めアーキテンポ、自衛隊祭に出店し、沢山のひとと交流することができました。2020 年度の活動は未定です。

<目的> カフェを通じて地域と学生をつなぐ場をつくること、吹風舎が地域交流の拠点となることを目的です。

<活動内容> 地域住民の協力を得て、まちかどキャンパス吹風舎や厨房付きレンタルスペースアーキテンポで隔週土曜の午前中にカフェを開きました。アーキテンポでは福知山のパン屋さんやカフェとコラボしてスイーツを並べました。また、陸上自衛隊福知山駐屯地創立 69 周年記念行事に出店し、沢山のひとと交流することができました。

<成果> 学生にとって、コーヒーを淹れて地域住民に提供すること、交流を深めるといった体験は貴重なものとなりました。

金銭のやり取りや管理を行い、留意すべき点や必要な条件を学ぶことができました。

苦勞することも多々ありましたが良い経験になったと思います。

<地域の声> ●開店の頻度を高めてほしい。

●午前だけでなく午後にも開店してほしい。

<学生の声> ●難しかったが、自分たちで経営の勉強ができて良かった。

●学生が訪れる魅力が足りなかった。



福おじばプロジェクト

<活動メンバー>

3 回生：上野裕也 小林冠太

2 回生：井坂彩乃 三根楓子

1 回生：石田蓮 大石絆那 小島未来 豊田歩未 深川春輝 米村彩花

<概要> 交流会などを企画し、プロジェクトメンバーと地域のおじちゃんおばあちゃんの交流の場を作っています。お互いが気にかげられるような関係を築き、新しい発見ができるプロジェクトです。

<目的> 福おじばプロジェクトでは、「第 2 のおじばをつくる」を目的に活動してきました。この目的には、私たち学生が卒業後も「あのおじちゃんおばあちゃん元気かな」と気かけ、福知山に帰る動機になるような関係を築きたいという思いがあります。また、おじばと学生がお互いに刺激し合い、より安心して過ごせる地域づくりを目指していきたいです。

<活動内容> 一年生プロジェクトと題して、趣味や得意な事を共有し合う「まちかど団らん会」を開催しました(6/2 開催)。そして昔と今の恋愛の話を通して交流を深めようとした「恋バナ交流会」を開催しました(6/20 開催)。更に学生が「全国から来ている」という特色を活かして、それぞれの地元の郷土料理や有名食材を使ったものを持ち寄った「おかず持ち寄り会」を開催しました(1/18 開催)。加えてインタビュー企画「繫」を行いました。新町商店街で活動されている 3 名の方に活動内容や学生とやりたい事をお聞きしました。

<成果> 大きな成果としては地域と関わる事の難しさを知りました。地域で活動する上で、一人の大人として扱われたので、当然失敗もありました。礼儀作法がなかったのが怒られ、辛い事もありましたが、成功した時の嬉しさは大きいものでした。DOKKO での活動は本当の意味での「地域に出る」というものでした。2019 年度の活動を 2020 年度に活かしていきたいと思ひます。

<地域の声>

●全国から来ている学生と触れ合える事ができて良かった。

●普段なら会う事がない大学生と接点を持てたことが嬉しい。

<学生の声>

●地域に出る事で一人の大人として扱われるので、喜ばれる事も怒られる事もあったけど、本当の意味で「地域に出る」事が出来た。

●人生の先輩にあたる方々と沢山話をする機会が出来ました。自分が知らない世代の話や経験を聞いた事が良かったです。



ふく子やプロジェクト

<活動メンバー>

3 回生：小林達彦 森岡信照

1 回生：久保あずさ 齋藤駿 本田湧大 三浦純子 三宅祐花 中垣琴羽

<概要> ふく子屋プロジェクトは座学ではない学びや体験を通して子ども達と大学生が互いの成長を目指します。そのために「ふく子屋」をこの 1 年で 3 回行い、「防災大作戦」などの地域の方との活動も行いました。

<目的> ふく子屋プロジェクトは地域の子供達と大学生が交流することにより、互いに学び、成長できる場をつくります。子ども達が大学生を身近に感じられることを心がけて様々な活動やイベントを行っていきます。

<活動内容> 座学でない学びや体験を通して子ども達と大学生が互いの成長を目的とする「ふく子屋」を 3 回開催しました。具体的には「トロンボーン、ブーメランを作ろう」、「水中エレベーターを作ろう」、「クリスマスリースを作ろう」を行いました。また地域の方と協力してストロー飛行機や昔遊びをした「惇明地区公民館まつり」、惇明小学校の講堂で巨大すごろくを作って遊んだ「わんぱく村」、雲原の公民館で様々な防災に関わるブースを通して防災の力を身に付けることを目的とした「防災大作戦」などたくさんの活動をこの一年を通して行うことができました。

<成果> この 1 年を通して得た大きな成果は「ふく子屋プロジェクト」を多くの方に知ってもらったことです。私たちはふく子屋として様々なイベントの運営スタッフを通して多くの子ども達と関わってきました。その行く先様々なところでふく子屋プロジェクトの活動を知ってもらい、実際に継続的に来てくれる子どもたちもたくさん増えました。これからも子供たち一人一人と向かい合っ活動の輪を広げていこうと思ひます。

<地域の声> ●普段触れ合うことのない大学生と

子どもが楽しそうに遊んでよかった。

●ふく子屋の熱意を感じる事ができた。

<学生の声>

●コネクションが広がるきっかけになった。

●子どもと触れ合うことが様々な学びへとつながった。



畑プロジェクト

<活動メンバー>

3 回生：上埜妙子

1 回生：秋山蒼 秋山勇介 安藤憧磨 井上僚太 上山遼太郎 坂野菜夢 坂野井利緒 橋倉郁人 正木くるみ

<概要> 畑プロジェクトは、大学近くの畑をお借りして自分たちで野菜を育てることから始まりました。野菜を育て、それを味わう楽しさとなかなか思い通りにいかない大変さを感じながらも、学生と地域を農業で繋いでいくために活動しています。

<目的> 農作業や自分たちで育てた野菜を通して人のつながりを育てていくこと。

<活動内容> 主な活動は毎週水曜日の 16 時から大学近くの畑での農作業です。プロジェクトを始めたことで学生が市内の農家さんから農業を学ぶ場が生まれ、知識だけでなく種や苗をいただくこともありました。今年は大江町の農家さんにご協力いただき一緒に「雪下にんじん」を育てることに挑戦し、育てた農作物を福知山公立大学の学生プロジェクト「ふくちやま子ども食堂」に提供することができました。他にも地域住民の方から教わる福知山市丹波生活衣館での藍染体験や、お世話になっている農家さんからそば打ちを教わっていただくなど、地域住民の方から農業以外のことも学びました。

<成果> 野菜の苗植えや収穫のときには、プロジェクトメンバー以外の学生の参加も多くあり、学生に農業の楽しさを広めることができました。プロジェクトを通して知り合えた方々から農業以外にも藍染やそば打ちなども教えていただき、学生が「農業」というきっかけから様々な学びを得ることができるといった可能性を感じました。これからは福知山の大学生の強みを生かして「今ここでしかできない学び」をプロジェクトで考え行動していきたいです。

<地域の声>

●学生のうちに農業に触れておくことは大切だと思う。今後も頑張っ欲しい。

●畑に来る回数が増えれば、もっとたくさんの畑のことや田舎の良い伝統などを経験してもらえたらと思う。

<学生の声>

●地域の方々に農業を教わることを通して、地域で精力的に活動されている方々との交流に繋がった。自分自身の、地域経営を学ぶためのフィールドが広がったと思う。●畑をやってみて難しさや大変さを知ることができ、普段食べている物に感謝の気持ちをもつようになった。また畑を通じて地域の方と交流して、とてもいい経験になったし、これからは畑で繋がるといいなと思う。



フクチゴトプロジェクト

<活動メンバー>
2 回生：井坂彩乃
1 回生：米村彩花

<概要>
福知山を好きな人を増やすフリーペーパーを作ります。

<目的>
地域を好きな人が増えることが地域活性化であると考え、福知山を好きな人増やすフリーペーパーを作ることを、福知山に来た理由として残します。

<活動内容>
地域活性化はその地域を好きな人が増えることだと考え、福知山を好きな人増やすフリーペーパーを作ろうと決めました。まず、2019年の春に福知山の飲食店を紹介するフリーペーパーを作りました。そして、大学生の作るフリーペーパーを学ぶため東京で開催された学生フリーペーパーの祭典「Student Freepaper Forum」に勉強に行きました。次は福知山公立大生のアルバイトを取り上げる予定です。いまの大学生のアルバイト環境は良いところばかりではないので、ホワイトなアルバイト先を紹介しようと考えています。ビジョンとして福知山のアルバイト環境の向上を目指しています。

<成果>
2019年度入学式に福知山の飲食店を取り上げたフリーペーパーを配りました。学生フリーペーパーの祭典で他大学のフリーペーパー製作過程について学びました。フリーペーパー発行ごとに軸やコンセプトを変えず一貫させたほうが、目的に沿ったフリーペーパーが作れると分かりました。

<学生の声> ●福知山に来て福知山のためにできることが残せそうで、これからもっとがんばりたいです。
●自分達で一からフリーペーパーを作っていくのが楽しみです。



学生企画チーム「DOKKO」

主な参加行事

- ・毎月 福知山ワンダーマーケット
- ・4月 第32回福知山お城まつり
- ・6月 地域プロジェクト公開プレゼンテーション
- ・6月 近畿 LINKtopos
- ・7月 第5回学生団体総選挙
- ・8月 福知山ドッコイセまつり
- ・9月 全国 LINKtopos
- ・10月 RUN 伴

主催行事

- ・2月 2019年度 DOKKO 活動報告会



活用状況報告 01

大学や学生の教育・実践活動を支援する場

2019年度吹風舎でのゼミナール活動

「ラジオ番組の制作・出演によるディレクション・口頭表現の能力向上」

地域経営演習Ⅱ-D (1年生) 担当：加藤好雄 准教授

本演習では、ディレクション・口頭表現の能力向上を目的として、綾部市のコミュニティラジオ局である「FMいかる」と連携し、学科別(2チーム)にラジオ番組の制作・出演(1チーム全6回：各回30分)を行っていました。まちかどキャンパス吹風舎をスタジオに、地域経営学科は「地方と国際化」をテーマにした番組を3回分、医療福祉経営学科は「医療現場で働くためのスキル」テーマにした番組を2回分収録しました。(加藤好雄)

ゼミ生全員がラジオの経験はなく、番組を自分たちで一から作ることに最初は不安を感じていました。声のトーンや話の進め方など慣れるまで大変なことも多かったですが、協力して取り組むことが出来たので貴重な体験だったと思います。今までよく知らなかったラジオの裏側を知ることが出来たり、ラジオの打ち合わせや本番を通してほかのメンバーの地元のことを知ることが出来たり、自分たちのラジオのテーマについて、より理解を深めることが出来ました。口頭表現の難しさや重要性を感じ、日頃から意識することが大切だと思いました。このラジオの経験を今後の勉強や生活にいかせたいと思います。(1年生、政岡あやの)



「まちはキャンパス～吹風舎を拠点に地域で学ぶ」

地域経営演習Ⅲ(2年生)、地域経営研究Ⅰ・Ⅱ(3年生)
担当：谷口知弘 教授

谷口研究室では、「コミュニティデザイン」を旗印に、多様な背景や価値観を持った人々が機嫌よく暮らせる持続可能な地域社会をつくるための理論や技法を開発する実践的研究を行っています。2年生と3年生のゼミは、「まちかどキャンパス吹風舎(ふくちしゃ)」を拠点に地域と関わり、大学と地域を往還して理論と実践の架橋を試みました。

地域経営演習Ⅲ(2年生)では、日々の暮らしや地域を見つめ直し、地域と協働でワークショップ「暮らしとまちを見直す井戸端会議」を3つのテーマで開催しました。

- ボードゲームから広がる多世代交流
- これからの福知山のスイーツの話をしよう
- 昔懐かし駄菓子屋を未来へつなぐワークショップ
～駄菓子屋の持つ魅力を可視化しよう～



地域経営研究Ⅰ・Ⅱ(3年生)では、17名のメンバーは、関心のテーマに集い4つのチームをつくり、福知山市の中心市街地をフィールドに次の4つのテーマで取り組みました。

- 銭湯経営の現状と観光資源に関する研究と実践 ～福知山市唯一の銭湯「櫻湯」での試みを通して～
- 「進学移住」学生の地域関心度向上を目的とした居住に関する総合情報プラットフォーム事業について
- 地域での祭りによる効果の研究と実践
～花火大会の復活プロセスを通してみんなで蘇らせる福知山
- 商店街の空き店舗を活用したアート活動による地域交流の展開



2019年度吹風舎での学生の課外活動

「世界のおそびを体験しよう」

ふくちやま多文化交流プロジェクト thinkn

3年生：内堀郁海、白岩朋夏 1年生：成瀬花音、西浦悠佑
(学生プロジェクト、サポート教員：大谷杏准教授)

私たちは、地域に住む外国人と地域住民が交流する場・機会をつくることで多文化共生に対する理解を深めてもらうことを目的としてイベントを企画し、2020年2月23日にまちかどキャンパス吹風舎で開催しました。

イベントでは「世界のおそびを体験しよう!」をテーマにアメリカの Duck, Duck, Goose や中国のディアボロ、韓国のチェギチャギなどの世界の遊びを地域の外国人と一緒に楽しんでもらいました。参加者はゲーム方式で外国の言葉や文化に楽しくふれることで外国語学習や異文化理解への関心が高まったのではないかと思います。また、普段関わることの少ない外国人と交流することで身近な存在に感じることができ、地域の一員として関係性を築ききっかけをつくることができました。(3年生、内堀郁海)



活用状況報告 02

大学や教員の事業・研究活動を支援する場

井口学長塾

「井口学長塾」は、歴史学者である本学学長井口和起が塾長となり市民と共につくる学びの場です。本学市民学習・キャリア支援センターの事業として2016年度に始まり、今年度で4年目を迎えました。開始から2年間は広小路商店街の古本カフェ「古本と珈琲 モジカ」で開催されました。まちかどキャンパス吹風舎が開設された昨年度から本施設で行われています。福知山や京都北部の参加者に学生、加えて京都市内や鳥取市からお越しになる方もいらっしゃいます。学長を囲んでの学びと交流の場は多様な参加者を得て、毎年充実し進化しています。

井口学長塾 第Ⅲ期のテーマ

- ①「歴史とは何か?」「歴史を学ぶ意義は?」というような問題と、それを念頭に地域史を学ぶ
- ② 福知山市やその周辺の地域の近現代史を学ぶ



国際研究交流会：「世論調査から見た日韓関係の相互認識」

主催：福知山公立大学国際交流センター委員会（委員長 渋谷節子 教授）

2020年2月1日(土)、まちかどキャンパス吹風舎で、韓国における日本近代史の研究者である朴晋雨先生(淑明女子大学文科大学日本学科教授)の講演会が開かれ、主として日韓の相互認識に対する世論調査の推移から、互いの葛藤・対立の背景と要因は何か、それを克服するための努力はいかに行ってきたか、未来への展望として何が見えてくるか等についての説明がなされ、その後、活発な質疑応答が行われました。参加者が10名程という少人数であったが故に、むしろ密なコミュニケーションと率直な意見交換が行われ、日韓両国の相互認識に関する理解を深めた有意義な講演会でありました。(鄭年皓)



日本ソーシャル・イノベーション学会 冬季セミナー in 福知山

「ローカルから社会を変える」

エクスカージョン

「まちの埋もれし資源を社会とつなぐリノベーションまちづくり」

主催：日本ソーシャル・イノベーション学会（冬季セミナー担当：谷口知弘）

2020年3月1日（日）、日本ソーシャル・イノベーション学会冬季セミナー in 福知山のエクスカージョンが実施され、まちかどキャンパス吹風舎では、福知山市の中心市街におけるリノベーションまちづくりの実践について、地元から2人の実践者が活動報告を行い活発な意見交換がなされました。その後行われた新町・広小路商店街界隈のフィールドワークは、参加者がまちの埋もれし地域資源の価値を再創造する現場に触れ、「ローカルから社会を変える」可能性の一端を感じるまち歩きとなりました。（谷口知弘）

活動報告

「福知山のリノベーションまちづくり」

庄田 健助（株式会社ローカライズ代表、福知山ワンダーマーケット代表）

「地域 × 大学・学生

～まちの埋もれし資源を社会とつなぐリノベーションまちづくり」

谷口 知弘（福知山公立大学教授）



活用状況報告 03

多様な市民活動を支援する場

フクユメ ～福知の人の夢語り～

主催：フクユメ実行委員会（龍谷大学政策学部を卒業し、福知山市に関わる3名で組織）

フクユメは月に1回、福知山出身者や福知山で活動されている人をゲストスピーカーとして呼び立て、夢や目標を語っていただき、参加者でディスカッションを行っています。

2020年2月時点で計25回開催し、会社員や大学生、公務員など多様な人々が集う場になっています。

皆さんも普段話すことの少ない夢や目標を聴いたり、語ってみたりしませんか？

（代表 倉寿和）



様々な市民活動の場となっています。

- パブリックスピーキングイベント「フクユメ」
- 句会「川柳はじめの一歩」
- 映画「小津」市民俳優オーディション会場
- 地域おこし協力隊および市民活動者による交流会
- 沖縄の戦前の映像等の上映会
- 新町商店街役員会
- スマートフォン使い方教室
- など



句会「川柳はじめの一歩」

福知山ワンダーマーケットとの連携

福知山ワンダーマーケットは、市民有志が実行委員会を結成し、2016年10月に第1回を開催して以来、毎月第4日曜日に催されている「暮らし」と「食」をテーマにした定期市です。手作りの雑貨や飲食など約50店舗が新町商店街に店開きし大勢の人々で賑わいます。

この取り組みのコンセプトにある「自分サイズの暮らし」や「簡単でもきちんと手の加えられた料理」を愉しみたい、大切にしたい、とのメッセージは持続可能な暮らし方や地域社会のあり方を探求する本学の方向性とも重なります。また、「新しく事業を始めたい人々やアイデアが出会い、影響し合って、人やモノやコトが繋がれば、まちなかで起業・創業する人も増えて、福知山という地域がさらに盛り上がる」との意思を持った活動への参画は、学生にとっては新たな気づきや刺激を与えてくれると期待しました。

そこで、持続可能な暮らしやコミュニティ、起業によるまちなかの活性化を目指す活動に共感し、共に取り組みたいと連携を始めました。具体的には、運営のボランティアやワンダーマーケット開催時にまちかどキャンパス吹風舎で主に子どもを対象にしたワークショップの開催などを行っています。

学生にとっては、市民と協働する実践教育の機会であり、大切な学びの場となっています。



開館 1年ありがとうございました

まちかどキャンパス吹風舎は、昨年5月13日に開館記念式典を開催し、無事に1年を迎えることができました。「市民の大学」「地域のための大学」「世界と共に歩む大学」を基本理念に掲げる本学にとって、地域の「まちかど」に拠点を持ったことは大きな喜びでした。この1年でひと月平均約500人の方々にお越しいただき、たくさん笑顔が生まれました。ご利用いただきました市民のみなさま、大学教職員・学生のみなさん、関心をお寄せいただいたすべてのみなさまに心よりお礼申し上げます。

地域と学生との協働の芽が出た

地域の方々と学生が協力して行う活動が生まれたことは、とても嬉しいことでした。吹風舎で活動する学生企画チーム DOKKO では「想て成しかふえ」や「焼き芋パーティ」、「ふく子屋」などを開催、大学正課の演習では、「和紙燈籠作り」や「学生のふるさとの『味』交流会」、「暮らしとまちを見直す井戸端会議」などが行われました。これらの活動は、学生にとって大きな学びの機会となっています。このような協働の小さな芽を大きく育てたいと思っています。

お互いの想いを大切にしたい

一方、協働することの難しさも実感しました。地域の方々の想いと学生の想いや大学の考えが、いつも重なるとは限りません。お互いの価値観や考え方が異なることを知り、相互に理解し合うことの大切さを学んだ1年でもありました。

次の1年、丁寧な話し合いを心がけ、お互いの想いを大切にしながらを創っていきたく願っています。

市民学習・キャリア支援センター長
まちかどキャンパス専門委員会委員長
谷口 知弘



▲「暮らしとまちを見直す井戸端会議」、学生の食テーマに話し合いました

今日の地域の人



6月5日、吹風舎にて公庄祥（さが）さんにお話を伺いました。

公庄さんは福知山市出身で、大学進学後、福知山市に戻ってきてからは暫く家で書道や刺繍を教えたり塾を開いたりしていたそうです。というのも、ご両親の「公庄さんは筆一本で生きていけるように、妹さんは包丁一本で生きていけるように」という思いからだそうです。幼い頃から書道に励み、自分でも書道に向いている！ と思っていたとのこと。旅や美味しい食事、カメラ（インスタグラム）などに興味があるそうです。

他にもたくさん公庄さんについて聞かせていただいた後、大学生に求めるものを聞いてみました。「若い人にエネルギーを与えてもらって、その分のお返しをしたい」と答えていただきました。（1年：小島未来）

今回紹介する学生さんは、1回生のマートこと山崎愛悟（まさと）君です。

徳島県出身で、高校で地域と関わる取り組みをしていたという珍しい経歴を持っています。大学の教授の監修の元で地域文化を元にした観光の研究に取り組み、調査やイベントのスタッフなども行っていました。その結果、コンテストで優秀賞を取るなどの成績も残しています。彼から改めて詳しい話を聞いて、本気さが伝わってきました。彼の今後の活躍に期待です！（1年：深川春輝）



今日の学生さん

吹風舎 利用時間：火曜日～土曜日 13時～18時（祝日及び、年始年末・お盆等は閉館）
ご利用案内 どなたでもご利用いただけます。本を読んだり、展示をみたり、休憩したりとふらっとお立ち寄りください。



福知山公立大学
まちかどキャンパス吹風舎
住所：福知山市上新7番
電話：0773-45-3087
Email：machikado@fukuchiyama.ac.jp
発行人：谷口 知弘
発行日：2019年7月31日

学生団体総選挙へ行ってきました



7月6日に東京で行われた、第5回学生団体総選挙に参加してきました。今回は1,000を超える団体がエントリーをし、書類選考を突破した80の団体が集まりました。当日は、それぞれ8つの部門に分かれ10の団体の話を聞きました。その後、8つの部門の中から1団体ずつが全ての団体の前でプレゼンをするというものでした。

今回の総選挙で感じたことが、まず、ファイナルに選出された団体の発表者のプレゼン力が高いということです。どの団体のプレゼンにも聴き入ってしまいました。特に、「学生団体夢人」のプレゼンは、人に質問するなど、その場にいる人を巻き込むようなプレゼンで聞いていて「もっと聞いていたい」と思えるようなプレゼンでした。また、ファイナルに選出された団体の共通点として、活動の「目的」がとても明確でした。それに対して、DOKKOの活動はまだ「目的」が曖昧な部分も多いと思うので、そこを改善していくと、もっと地域のためになる活動ができるのかなと思いました。(1年:三輪祐介)

ワンダーマーケット報告記

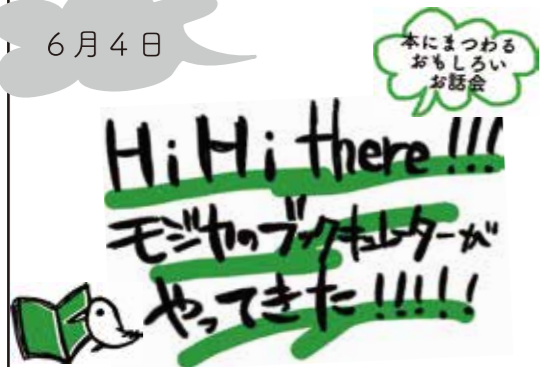
吹風舎で小学生を対象として24種類の折り紙を紹介しました。折り方が多いからこそメンバー内での共有や、諸準備に苦労しました。が、その努力が功を奏し子供をはじめ大人の方々にも大盛況でした。我々一周年には、地域の方と繋がる第一歩の日となりました。(1年:本田勇大)

幼稚園児から小学生くらいの小さい子と実験を通して安全に学べるように目薬、洗濯糊、絵の具を使いスライム作りをしました。ワンダーマーケット当日では自分が想像していなかった問題が起きたり小学生の柔軟な発想に驚かされました。そこで、小さい子に教える難しさや準備段階での情報共有の大切さ、複数人をまとめる大変さを楽しむことができ、「成功できてよかった」と思いました。(1年:橋本佑)

今回はモザイクアートの製作をしました。最初は話しかけるのに緊張しましたが、皆さん気さくにに応じてくださり、色々とお話できたことがとても良かったです。出来上がったモザイクアートは福知山城とワンダースタッフ集合写真の2作品。見に来てくださった方もちゃんと何の写真も分かってくれたので安心しました。たくさん小さな写真が集まって全く別の写真を作っていた事が不思議だし、感動です。最後にモザイクアートに協力してくださった方々にこの場を借りてお礼申し上げます。(1年:米村彩花)



6月4日



▲解説いただいた本と西村さん

この度、まちライブラリー「福々 Books」に65冊の本が入ってきました。この中で特にオススメしたい本をピックアップし、古本と珈琲モジカの店主・ブックキュレーター西村さんに解説をいただきました。

絵本から小説・実用書まで。少し難しそうでも読んでみるかな~と思うような本も、魅力たっぷりにご紹介いただきました。その本をどういう風に読んだら楽しいのか、その本にまつわる面白い



▲参加者さんも興味深々でした

お話、その本をもっと好きになる話等。本に親しみをもてるきっかけができたのでは?と思います。途中、西村さんのオススメしたい本の話も交えつつ、笑いの起こる、ほっこりとした講演会となりました。次回の講演会ではどんな方に来もらえるか楽しみです。(コーディネーター:松井)

本の交流会

4月20日
5月18日

春より再開した本の交流会。お気に入りの本(雑誌でも写真集でも小説でも漫画でもOK!)をもちより、思いを語るスタイルで、毎回参加者さんと楽しい時間を過ごします。

今回は子供さん連れの参加者さんもいらしたので、自分が小さい頃に読んだ本の話や、子供たちにこういう本を読んでほしいね~という話を挟みながら、自分のお気に入りの本を紹介しました。お茶を飲みながらゆったりとした昼下がりで。



さいきんのこぼり

新しい年度とともに、「吹風舎」に1年生の学生がたくさん来てくれています。様々な企画に積極的に関わる。色々な会話が生まれる。先輩たちと一緒にイベントに参加する。新しい風をたくさん吹き込んでくれています。今年の新入生は、やりたいことがはっきりしていることに驚かされます。まちかどキャンパス学生団体 DOKKO のメンバーでない学生も「ラジオをやりたいです」「茶道をやりたいです」と目的をもって「吹風舎」を訪れてくれます。地域にご迷惑をおかけすることも多くなるとは思いますが、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。(職員:塩見)

令和元年

市民が講師になって【まちびとゼミ】 みんなで学ぶ



福知山踊りを習って踊る(2019.7.31)

なぐ全国リレー「RUN 伴 2019」の福知山開催を前に、「認知症と地域社会」をテーマに開きました。福知山で「RUN 伴」や認知症の活動に取り組む方々を講師に、認知症やRUN 伴の活動について学び、交流しました。RUN 伴にランナーとして参加する公立大学生が10数名参加し地域のみなさんと認知症について学びました。

市民と学生、大学教職員が共に学び育て合う場をつくろう!「まちびとゼミ」では、講師を募っています。

市民学習・キャリア支援センター長
まちかどキャンパス専門委員会
委員長 谷口知弘

市民の方々が講師となって学生や市民と一緒に学んで交流する場が「まちびとゼミ」です。ドッコイセまつり間近の7月末、福知山が誇る郷土芸能、明智光秀ゆかりの「福知山音頭と踊り」の歴史や魅力を学び、踊りを体験しました。明智光秀と言えば広小路商店街理事長の吉田博さん、熱い熱い語りでした。そして踊りは若者に人気のゲタ踊り。福知山ゲタ踊り振興会のご指導で踊りました。子どもから学生、大人まで一緒にゲタを鳴らす賑やかなまちびとゼミになりました。

秋には、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながらタスクをつ



認知症について話し合う学生と市民(2019.10.17)

今日の地域の人



今回は、丹波生活衣館に設立当初から関わる四方美代子さんからお話を伺いました。

四方さんは、福知山市出身の大正12年生まれで、平成8年から丹波生活衣館の設立に関わられてきました。生活衣館設立に関わるようになったきっかけは、「明治時代から大正時代の農村の文化を次世代に守り伝えたい」と願い、丹波地域の生活衣を収集していた知人の思いに賛同し、生活衣展示の手伝いをしたことだったと言います。

生活衣館設立のために人脈をつくり、400人分の署名を集めるなど設立には多くの苦労があったそうです。設立後も、生活衣についての本の執筆者の一人として関わり、多くの人に生活衣の文化を伝える活動をされてきました。お話するなかで、四方さんは、「現代では、衣服を作る過程を日常で行うことはほとんどなくなり、昔から着られていた着物を作る裁縫の技術がなくなってしまう」とおっしゃっていました。そのような状況の中で、どのような大学生活を送ってほしいかという質問に対し、子供やお年寄りと話をして視野を広げたり、昔ながらの文化を自分自身で体験してほしい、という意見をいただきました。

インタビューをしていて、四方さんの日常にあるささやかな物に関心を持つ姿勢は、若い世代に大切な姿勢だと感じました。(1年:坂野井利緒)



今回紹介する学生さんは1回生の本田湧大(ほんだゆうだい)君です。出身は福島県の福島市です。小学3年生からボーイスカウトを行っていて、高校生になると小学生や中学生を教育する立場にあったそうです。その子供に教えるといったスキルを、今、学生企画チームDOKKOのふく子屋で応用し頑張っています。また、誰かの頑張っている所や輝いているところを発信する事がカッコいいという思いから、広報部で活動しています。

そんな彼の何よりの強みは誰よりもメモをとることで。メモを取りながら話を聞くことで、頭の中で整理し論理的に自分の中にインプットしているそうです。将来は色々な分野の方から話を聞き、知見を広めたいそうです。とても、勉強熱心ですね。彼の経験やコミュニケーション能力には学ぶべき事がたくさんありそうです。



今日の学生さん

(1年:山崎愛悟)

秋号



吹風舎通信 第二号

福知山公立大学
まちかどキャンパス吹風舎
住所: 福知山市上新7番
電話: 0773-45-3087
Email: machikado@fukuchiyama.ac.jp
発行人: 谷口 知弘
発行日: 2019年11月20日

fm学生探偵企画 『探偵のおひるやすみ』が始まりました!!!

皆様こんにちは。私たちは福知山公立大学、学生プロジェクトチーム「fm学生探偵」です。私たちは自らの手でラジオ番組を制作し、発信するという活動を行っています。ラジオと聞くと古いイメージが定着していると思いますが、私たちは幅広い年齢層に聴いてもらうことができ、番組の制作・発信側と聞く人との距離が近い点がメリットだと思っています。私たちはそんなラジオの可能性を信じ、大学の基本情報をはじめ、学生が大学で学習したことを活かし、地域のために地域の方々と一緒にやりたいと思っていること等を発信し、大学生と地域の方々とを繋げる役割を果たす番組制作を目指しています。実は先日そのラジオ番組の企画会議をこの吹風舎でやらせて頂きました。また現在はFMいかるという綾部のスタジオで収録をしています。ここだけの話来年頃からこの吹風舎での収録を考えています。吹風舎は非常にアットホームな雰囲気でも利用できるという点が素敵だと思っています。なので皆様もぜひ利用して頂きたいなと思いますし、私たちの収録もぜひ見に来てほしいなと思っています。



最後に私たち「fm学生探偵」はFMいかる(86.3Hz)にて毎月第1,3,5土曜日12:30~13:00に『探偵のおひるやすみ』という番組を放送しています。ぜひお聴きください。
(1年:成瀬花音)

「RUN伴」に参加しました!!

今回RUN伴に参加することで認知症への知識が身につく、認知症に対する見方が変わりました。また、学生企画チームDOKKOメンバーや初めて会う方々と長距離を走る中で達成感や楽しさを味わうことが出来ました。8月末にRUN伴の参加が決まったときは、半年以上運動をしていなかったため最後まで走りきれないかとても不安でした。そこで、一緒にRUN伴に参加するメンバーと本番のコースを走ることで不安を解消し、団結力を深められたのではないかと思います。みんなで走ると辛さや孤独感が無くなり、1人で走るときより何倍も楽しく走ることが出来ました。RUN伴の2日前のまちびとゼミでは認知症に関して少し教えて頂くことが出来ました。そこでは認知症がどんなものか、認知症の人にはどのように対応すれば良いのか、なぜRUN伴ができたのかなどを聞くことが出来ました。聞いた話の中で私が知らなかったことや誤解していたことがあり、とても勉強になりました。そして、自分の家族がもし認知症になったら…と考えさせられる場面もありました。RUN伴を通して得た知識を、地元に戻ったときに家族に話したいと思っています。今回RUN伴に参加しなかったら出会うことが出来なかった方々と話したことや、RUN伴に参加することで出来た経験を糧にこれからも地域と関わりながら頑張っていきます。
(1年:久保あずさ)



10月19日~
11月9日



福々ライブラリー
まちライブラリー

本の交流会 10月19日

今回は、テーマを「本屋大賞」にして本の交流会を行いました。サポーターの大学生が、過去の実績作をまとめたプリントを作成してくれたのですが、それがとても役に立ちました。過去の本屋大賞は、ドラマや映画化されたものが多く、本を読んだことのある人もない人も、それぞれに思い入れの強い話をしていただきました。



まちライブラリー「福々BOOKS」では、読書の秋、読書週間に合わせて、まちなかを歩きながら本と触れ合う催し、「本のおひめぐりさんぽ」を行いました。図書館や美術館、まちなかのお店等に声をかけ、そのお店に合ったイベントや、テーマを決めた本棚を作っていただき、いろいろな人が入りやすくなる工夫をそれぞれのお店に行なっていただきました。各お店では本の実と称して、来店いただいた方に、自分の好きな本や思い出に残っている本を紙に書いていただき、それを集めて図書館と吹風舎に掲示しました。沢山の方に協力いただき、木がいっぱいになるほどの本の実が集まりました。

今後も本に触れるきっかけとなるイベント作りが沢山できたらいいなと思います。
(コーディネーター:松井)

— さいきいのこほり —

8月9日には学生たちが大学のお休みに合わせ帰省したり旅行に出かけたりと寂しい吹風舎でしたが、秋風が吹き始めるとお土産話を持った学生たちが帰ってきてきました。

最近は、芸術の秋というわけではありませんが、俳句の会、川柳の会など勉強をする方や絵を描く小学生など、文化を楽しむ方が多く来てくださっています。みんなと共有できる好きなものを持てるのは素敵ですね。
(職員:塩見)